



安全・安心 みんなで**防犯**

児玉警察署
生活安全課
☎72-0110

犯罪被害に遭わないためには！ 戸締り、鍵締りの励行！！

- ◎お出かけの際は必ず鍵を掛ける。
 - ◎自転車・オートバイは、ツーロックして停める。
 - ◎車内にバック等を置いたまま、車から離れない。
- ※被害防止の秘訣は戸締り・鍵締り



投資勧誘詐欺に注意！

高齢者が狙われています！

いかにも“もうかる”という内容の投資を持ちかける悪質商法が増えています。

【こんな言葉に注意】

- 別の業者から高値で買い取る等の電話が来た。
- 10%以上の高金利商品
- 必ず儲かるといった債権ファンド
- 被害を回復してあげます。



悪徳商法にご用心

室外機盗難が増加！

県内では、室外機を対象とした金属盗が7月から増加しています。
(8/20現在 316件発生)



室外機に防犯ステッカーを!!

不審者を見かけたら110番通報をお願いします。

ワンポイント 手話講座 ⑪

～電車～

左手2指の下を折り曲げ
右手2指ですべらせませす。



(出典:わたしたちの手話
/財団法人ろうあ連盟出版局)

俳句
植栽の日日草やコミュニケーション
ゴードンあちこち下り色染めて
魁の桜落葉や吹かれ行く

短歌
眠られぬ一夜は辛し朝の陽の
光まぶしく今日の始まり
堀内 英子
添い寝して気づけば共に夢の中
蝉の目覚時計耳に届かず
原田 淳子
暖簾のしとぞ押すられながら怒らずに
泣かない私を演じて暮す
神岡 歌子
検診日見知らぬ同士話題弾み
年の功かと自然笑み浮かぶ
清水ミヨ子
蝶ひとつ幼のめぐりを幾まわり
共に遊んでいるように舞う
設楽 芳江

**みさとと
文芸**
俳句と短歌を募集中！毎月5日まで
に総務課へお届け下さい

俳句
梅干して三日三晩の今日の朝
健康食品紫蘇つぼに仕舞う
須賀 茂子
母の遺しし柳行李はセピア色
防空頭巾ともんべしまわる
長滝 てつ
故郷の利根川恋し夏の宵
月見草の香今も心に
小林カツ子
掃きよせる枯葉に混じる蝉の骸
一夏を鳴きし命いとおし
柴崎 まつ
庭すみの名もなき雑草も
気づきて見ればけなげに咲きて
福島恵美子
俳句・短歌の投稿には、住所・氏名・連絡先
ふりがな等を必ず明記してください。

リレー連載⑥ 義民 遠藤兵内250周年

『明和伝馬騒動と 尾高惇忠について』

荻野勝正
(深谷市在住・尾高惇忠研究者
著書『尾高惇忠』『近衛の父』他)

江戸時代中期の明和元年(一七六四)十二月、東北地方の農民が中心となって、明和伝馬騒動と呼ばれる大規模な百姓一揆が起こった。決起の理由は、宿場への人足や馬の提供を農民に義務付けた助郷の、その免除を幕府に訴えることが中心だったが、渋沢栄一の従兄弟であり師でもある尾高惇忠は貨幣制度にも触れている。慶長小判一両がその後、元禄・宝永の貨幣改鑄により、軽小粗となり、諸物価に悪影響を及ぼし、米価は倍に騰貴する。さらに正徳・享保・元文年間にも改鑄が実施され、この点からも農民の生活は苦しくなり、江戸を目指して行動することになる。一揆には群馬県や長野県の農民も加わり、延べ二十万人が蜂起したといわれる。



尾高惇忠翁

年にして初めて世に明らかに示された」と記し、藍香翁(尾高惇忠)こそその示した人だとしている。そして『義民にしてみても、霊あらば、まさに笑顔を冥土に含んで深くその恩を謝すべきなり』とまとめている。かように友部が、兵内を世に知らしめたその先駆者は尾高惇忠だと強調している点は注目される。明和伝馬騒動は名も無き農民たちの大規模な一揆により、やがて幕府が滅亡に向かっている節目となる。どうしよう世界遺産に推薦が決定となった富岡製糸場と絹産業遺産群。その初代場長となった人が尾高惇忠である。惇忠と美里町は、記してきた他に不思議な縁が二つあった。一つは彼の先妻幾世は町内大沢地区の根岸家出身である。もう一つは、明治二十九年に町内松久地区に『秋蚕の碑』が建てられたが、正面の建碑の由来、裏面の建碑に協力した方々の氏名、撰文と撰文いずれも尾高惇忠になっていて、高さは二メートル余りで、建立したのは地元の高さ二メートル余りとなっている。この碑の裏面上から七段目に、尾高惇忠・渋沢栄一・葦塚直次郎、さらに幾世の実家、根岸幸太郎の氏名が同じ列に記されていることに感動した。

歴史文化財講演会 を実施します

美里町では、「美里町の歴史と文化を伝える会」の発足に伴い、歴史文化財講演会を実施します。ぜひ、ご参加ください。

日時
平成24年10月28日(日)
午後1時30分～

場所
美里町遺跡の森館 映像展示室

演題
「日本刀について」
付日本刀から出た言葉

講師
志塚德行氏
(美里町文化財保護審議委員)

問合せ＝生涯学習課
文化財・文化振興担当
☎76-0204 (遺跡の森管内)

「義民 遠藤兵内コーナー」 を設置しました！

遺跡の森館ロビーにミニ企画展として「義民 遠藤兵内コーナー」を設置いたしました。

遠藤兵内は、明和元年(1764年)に幕府の増助郷に反対して起きた百姓一揆である「伝馬騒動」の指導者として、処刑されました。処刑後、村の人々や一揆の参加者により、兵内を義民として追慕し、供養する目的で供養塔が建立されました。



平成元年、この供養塔の補修工事中に解体した塔身部の中からたくさんの「古文書」が発見されました。「古文書」の中には、「寄進札」といって農民たちが極秘に寄金を出し合って供養塔を建立したことを示す古文書も見つかっています。

ぜひ、この機会に見に来て下さい。

※助郷(すけごう)

助郷は、日本における労働課役の一形態を言います。江戸時代、徳川幕府が諸街道の宿場の保護及び人足や馬の補充を目的として、宿場周辺の村に課した夫役のことを言います。